

# 農業

平成22年 6月号  
会誌 No. 1534



## 目次

### 巻頭言

- 我が国の大学における農業教育はどうあるべきか……………石井 龍一 3  
－今こそ議論が必要な時－

### 論壇

- 「自産自消」の提唱……………祖田 修 4

#### 先進農業者懇談会

- 大規模水田経営と有機農業…………… 6  
－平成21年度第2回先進農業者を囲む懇談会から（第1部）－  
減農薬中心で企業的経営……………竹田 香苗 7  
奥津軽で大規模有機農業……………三上 新一 10

#### 農業技術開発研究会

- 地球環境史の中での農業について…………… 20  
－第2回今後の農業技術開発・普及機能のあり方研究会から（第2部）  
意見交換…………… 20

#### 現地セミナー

- 農業経営の複合化と産地形成……………小泉 浩郎 27  
－（有）西部開発農産を事例として－  
評価の物差しを変える  
規模拡大と経営の複合化  
地域との共存

地域農業交流セミナー

安全・安心で環境にやさしい施設園芸の取組（Ⅱ）…………… 37  
－ 四国地域農業交流セミナーより－  
    緑色光照射による農作物の病害防除技術…………… 工藤 りか 37  
    トマト生産・流通過程における GAP の取組…………… 山本 太郎 43

農業・農村の現場から

東北地方における米粉パン状況…………… 齋藤 貞二 48  
－ 2004年6次産業化の始まり－

世界の農業は今

アフリカ稲作の実情と大学に期待される振興支援…………… 浅沼 修一 52  
－ 日本アフリカ農業教育研究センター構想－

統計情報

平成21年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量…………… 57

農政情報

…………… 58  
大日本農会だより…………… 59  
ミニ情報「農業・農村の6次産業化の推進」…………… 36

表紙写真説明

れんこん畑の肥料散布（岡山県倉敷市<sup>つらしま</sup>連島）

岡山県倉敷市は、中国山地に発する高梁川が水島灘に注ぎ込む沖積地に位置する市である。水島コンビナートといわれた石油化学、三菱自動車等の工場群があり工業都市のイメージがあるが、江戸時代から、高梁川の沖積地は水田開発が盛んに行われ、河口にあった玉島は陸続きとなり、豊かな田園地帯ができあがっている。現在でも元気のよい農業がおこなわれ、玉島のもも（清水白桃）、船穂のぶどう（マスカット・オブ・アレキサンドリア）等の果実や連島（水島地区）のれんこん、ごぼうが有名で、農工が一体となった市である。

連島れんこんは、粘土質の土壌と高梁川の豊かな伏流水に恵まれた広大な干拓地で作られる。生産量は、全国第6位、岡山県下では第1位である。連島のれんこんと連島ごぼうは、倉敷ブランドに認定されている。

表紙写真のように田舟を使った農作業風景は、近年は、見られることがなくなったという。

（写真提供：（社）農村環境整備センター）